

令和2年4月27日

卓球部員のみなさんへ

東京高体連卓球男子専門部委員長

東京都立小川高等学校 平 雅行

『全国総合体育大会（インターハイ）中止について』

卓球部員のみなさんこんにちは。この4月より東京都高等学校体育連盟卓球男子専門部の委員長に就任した、東京都立小川高等学校の平雅行です。

みなさんは、卓球というスポーツが好きで卓球部に入部したことと思いますが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日々の生活や学校生活、そして部活動にまでも影響を及ぼして、大好きな「卓球」をプレーすることがなかなかできない状況かと思います。

先日、全国高等学校体育連盟から「8月に行われる予定であった全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を中止する。」との連絡がありました。このインターハイは1963（昭和38）年に第1回大会が新潟県で開催され、過去の大会中止は一度もありませんでした。今年のインターハイは、本来であれば北関東4県を中心に開催する予定でしたが、東京オリンピック・パラリンピックの影響で競技会場等の確保が難しく、21府県に分散して開催する予定でした。そして、卓球競技は岩手県が引き受けてくれ、自治体の負担軽減のために特別基金やクラウドファンディングで資金を募るなど準備を進めてきました。しかし、この新型コロナウイルス終息の目途が立たず、残念ながらインターハイを中止するとの結論になってしまいました。この中止を決定した全国高体連の役員の方たちも九腸寸断の思いだったことと思います。

高校生にとって、2020年のインターハイの舞台は2020年しかありません。この夢の舞台が無くなってしまい、とても残念な気持ちでいっぱいです。また、今年度の東京都の大会もまだひとつも実施できていません。3年生にとっては高校生としての最後の大会、2年生にとっては後輩ができて初めての大会、1年生にとっては高校生になって最初の大会が実施できておらずに暗雲低迷の状態ですが、重見天日という言葉のように必ず良い方向に向かい、思いっきり卓球ができる日が戻ってくると信じています。3年生はこれでラケットを置くという生徒もいるかもしれませんが、「卓球」というスポーツをずっと愛してほしいです。東京都の高校生の大会が実施できるときがきたら、後輩の応援に是非来てください。2年生と1年生は「卓球」をもっともっと好きになり、次に実施できたときの大会で思いっきり楽しんでプレーしてほしいです。

私事ですが、私もみなさんと同じように、高校生の頃は東京都の高校に通い卓球部員として大会に参加していました。大会では活躍できませんでしたが、大学まで卓球を続け、卓球を続けたことにより仲間が増え、人脈も広がりました。今の私があるのも「卓球」のおかげだと思っています。

最後に「疾風勁草（しっふうけいそう）」という言葉を送ります。

『激しい風が吹いて、初めて強い草が見分けられる。困難に遭ってはじめてその人間の本当の価値、本当の強さが分かる。』と言う意味です。風の無い日は、強い草も弱い草も区別が付きません。しかし、ひとたび疾風（強い風）が吹き荒れると、強い草はそれに耐え立っているが、弱い草はとたんに伏せてしまいます。疾風を受けて初めて強い草の真価が発揮される訳です。社会や人間もこれと同じで、困難に出会い、逆境に陥ったときに初めてその人の真価が発揮されるということです。

日本を含め世界中は今、大変な状況です。こういうときだからこそ、まさにこの『疾風（しっふう）に勁草（けいそう）を知る』という言葉大切にしてほしいと思います。一日も早く普段の生活、学校生活そして部活動が再開できるようになり、大会等でお会いできることを楽しみにしております。